

# レース鳩の感染症一覧表 [ウイルス性疾患]

ニューカッスル病 (ND) 鳩パラミクソウイルス感染症	鳩アデノウイルス感染症	鳩ヘルペスウイルス感染症	鳩サーコウイルス感染症	鳩痘	病名
NDウイルス	鳩アデノウイルス	鳩ヘルペスウイルス	鳩サーコウイルス	鳩痘ウイルス	病原体
接触・空気感染 経気道・経口	接触・空気感染 経気道・経口	接触・空気感染 経気道・経口	接触・空気感染 経気道・経口	感染鳩からつつかれて感染、蚊が媒介	感染経路
間質性腎炎による水分の漏出 (水便) および飲水過多 非化膿性脳炎による首曲がり等 死亡率 20%	元気消失 消化器症状 嘔吐・緑便 肝炎 死亡率 5%	呼吸器症状 鼻水・くしゃみ 鼻瘤の変色、涙眼 肝炎	羽の異常 主翼の湾曲・脱毛 免疫不全	痘疹型 鼻瘤・眼ぶち・脚の痘疹 粘膜型 口内～食道に痘疹	症状
抗体が出来るまで約1ヶ月間、舎外・レースの中止	NDと同じ 嘔吐がある場合は、エサを半分にする	NDと同じ	NDと同じ	病鳩の隔離	応急処置
サルモネラ症との混合感染も多いので、ノルフロキサシン 2～6ml/ℓ を 5～10日間投与する 鳩舎内をガスバーナーで消毒し、飲水器は漂白剤に浸ける	トリコモナス、あるいは細菌によるソノウ炎が多い為、メトロニダゾール 2～6錠/ℓ + ノルフロキサシン 2～6ml/ℓ を 5日間投与する 消毒は ND と同じ	呼吸器症状が多いため、マクロライド系抗生剤 0.8～2.4g/ℓ を 3～6日間投与する 消毒は ND と同じ	免疫増強剤の投与 消毒は ND と同じ	痘疹 (おでき) にヨードチンキを毎日塗布し、約2週間後ピンセット等で除去する	治療方法
巣立ち迄の雛 ND 生ワクチンの点鼻 巣立ち後の若鳩 ND オイルワクチン 0.5ml の注射 種鳩・選手成鳩 ND 生ワクチンの点鼻	ワクチンは無いが、 <u>免疫増強剤</u> の投与 各合同訓練・レースの持ち寄り 3日前～前日まで	鳩アデノウイルス感染症と同じ <u>免疫増強剤</u> の成分 塩酸レバミソール ビタミンC 善玉菌 コラーゲンなど	鳩アデノウイルス感染症と同じ	鳩痘ワクチンの接種	予防対策

# レース鳩の感染症一覧表 [細菌および原虫性疾患]

上部気道炎	クラミジア症 (鳩病・オウム病)	サルモネラ症	コクシジウム症	トリコモナス症	病名
マイコプラズマ 各種細菌 まれに、 クラミジア	クラミジア シッタシ	サルモネラ チブリアム	コクシジウム コロンバエ	トリコモナス コロンバエ	病原体
経気道感染 糞塵を吸い込んで、 あるいは眼に入っ て感染する事も多 い	経気道感染	経口感染 垂直感染 メス親→卵	経口感染	経口感染 特に、親→雛	感染経路
鼻瘤の変色 涙眼、鼻水 異常呼吸音 開口呼吸	元氣消失 両眼からの流涙 顔面の腫脹 死亡率2～3%	下痢便 翼・脚の関節炎 斜頸、突然死 死ごもり、嘴うち、 雛の死亡	下痢便 体重減少 羽毛の質の低下	飲水過多、嘔吐 水便→緑便 餌の通過障害 雛の発育不良 疲労回復の遅延	症状
マイコプラズマ →マクロライド系 抗生剤0.8～2.4g/ℓ 各種細菌 →アモキシリン 2～6g/ℓ 症状を視ながら 3～6日間投与 クラミジア 右項参照 涙眼…点眼薬	ドキシサイクリン 2～6g/ℓ 5～10日間投与	第一選択薬 ノルフロキサシン 2～6ml/ℓ 第二選択薬 ノルフロキサシン2 ～6ml + メトロニダ ゾール2～6錠/ℓ 第三選択薬 アモキシリン2～ 6g + ゲンタマイシン 1.5～4.5g/ℓ 5～10日間投与	スルファジメトキ シン8～24g/ℓ スルファモノメトキ シン0.8～2.4g/ℓ サルファ剤合剤 6～18ml/ℓ 5～10日間投与	メトロニダゾール 2～6錠/ℓ 5～10日連続 *錠剤は、ペット ボトル等に水と 一緒に入れ、5 ～6時間放置後、 よく振って使用 する	治療方法
定期的な投薬 特に、梅雨時 投薬および直後の 鳩舎内等の消毒	定期的な投薬と 投薬直後の消毒	種鳩 配合前の投薬と 投薬直後の消毒 サトウキビ抽出物	定期的な投薬 投薬直後にコクシ ジウム用消毒薬で 消毒	定期的な投薬 抱卵中に投与 投薬直後の飲水器 消毒	予防対策

レース鳩の感染症一覧表 [寄生虫性疾患および外部寄生虫]

鳩毛様虫症	鳩回虫症	羽虫	ダニ類	ワクモ	病名
鳩毛様虫	鳩回虫	鳩羽虫	鳩ダニ	ワクモ	病原体
経口感染	経口感染 新鮮便中の回虫卵を口に入れても感染しない	接触	接触	温暖な地域に多く、鳩には寄生せず、止まり木・巣箱に住み着いている	感染経路
体重減少 軟便→粘液便→粘血便 死亡率10%	餌の食いは落ちないが、痩せてくる軟便	主に主翼の羽軸付近およびソノウ付近の羽毛に寄生し、羽がボロボロになる	脇・ソノウ・総排泄腔付近の皮膚に寄生し、痒みを伴う 夏の被害大	夜中に、鳩の脚から吸血する脚をバタつかせる夏の被害大	症状
塩酸レバミゾール 2～6g/ℓ パモ酸ピランデル 1/4錠/1羽 3日間投与	塩酸レバミゾール 2～6g/ℓ パモ酸ピランデル 1/4錠 1日	有機リン剤末 水浴び…1g/ℓ *餌、水を与えた後に実施する スプレー…2g/ℓ 眼鼻に降りかからないように注意する	羽虫と同じ	有機リン剤末 止まり木、巣箱および床に噴霧し、ガスバーナーで乾かす *鳩舎周囲に噴霧すると、ゴキブリ等も居なくなる	治療方法
定期的投薬 投薬直後の消毒	鳩毛様虫と同じ	パボナプレートを吊るす。但し、一日陰干した物を使用する。また、月に1～2回プレートを乾拭きする	羽虫と同じ	羽虫と同じ	予防対策